

# 帯広大谷短期大学の講義に 議員を派遣しました

8月10日、帯広大谷短期大学の講義「地方行政論」に7名の議員を派遣しました。3グループに分かれ、各テーマに沿って学生からの質問に答えました。ここでは、学生からいただいた意見や感想の一部を紹介いたします。

○講義で一番印象的だったことは、音更町を知り、町民が求めている事を知り、それを実現するために「勉強が必要だ」「広く知識を得ることが重要」と7人すべての議員が語っていたことです。また、議員の活動は決まった休みはないなど、想像していたよりも厳しく非常に驚きました。

○特別講義を拝聴し、それぞれの常任委員会を取組について知ることができた。議員の方々は音更町の発展のために様々な工夫をし、それぞれの分野で活動しているということが分かった。

○各議員とお話をする中で、「更に良い町にしてくれる」「楽しいと思える観光地として音更町を盛り上げてくれる」「災害の際に危険な場所を全町民が知ることができるよう取組をしてくれる」という感想を持った。

○議員はお堅い感じの人だというイメージをもっていました。実際に話をすると、とても優しく話しやすい印象をうけました。議員の仕事内容、普段どのような活動をしているのか、どのようなことに力を入れているのかなどを知り、皆さんが音更町をより良くしたいと感じることができました。

○議員同士が切磋琢磨して学べる環境づくりのお話や、ジェンダーについて分かりやすく説明してくださり今回参加して良かったと感じました。来年から私たちが社会人になるので、教えていただいたいと思います。

○日本は女性議員の少なさが問題になっていくと知っていたので議員名簿をみたとき、意外に女性が多いと感じました。「男女共同



議員の仕事や議会について熱心に聞く短大生

参画」「若者の政治参加」などの問題について対話形式で話すことができ非常に楽しかったです。これからのこのような場を設けてほしいと思います。

○今回の講義に参加し、議員とは住民の意見や要望に幅広く対応し、常に住民に寄り添う私たちの身近な存在であることを知りました。私も機会があれば、住民の意見を取り入れ、より快適で豊かな環境をつくることのできる議員になってみたいと思います。

## 編集後記

9月定例会では令和3年度決算審査委員会が行われました。この年はコロナ禍で経済の不安に加え住民生活が脅かされた年だったと思います。このような厳しい環境において限られた予算でどのような税金の使われ方をしたのか又どのような問題があったのかを審議しました。

議会広報は、議会が何を考え、どう行動しているのかを伝えるツールとして大変重要と考えています。ここ3年の間に、文字を大きくし、フォントも変更しました。また、レイアウトに変更を加えるなど、どうしたら読みやすくなるか工夫しております。表紙写真の募集もその一環です。今後も町民の皆様に関わりやすく、親しまれる「議会だより」を目指したいと思います。

編集委員 松浦波雄